



瑞南小だより

第16号

令和7年12月25日

発行責任者 伊藤雅幸



令和7年を振り返って



令和7年も残すところ1週間となりました。

令和7年は、どのような年だったでしょうか。

私が着任した令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の流行拡大が少しずつ収まりかけ、5月には感染症法上の5類に移行されるなど、学校生活もコロナ禍以前に少しずつ戻りつつある状況でした。

あれから2年が経過し、学校生活においては子どもたちの元気な声が響き渡り、校庭でも元気に遊ぶ姿が毎日のように見られるようになりました。

また、大きな事故や事件に遭うことなく、輝く笑顔で一年を過ごすことができました。

これも保護者や地域の皆様が、児童を温かく見守ってくださったおかげであります。

この場をお借りしまして改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

令和8年が、皆様にとってよりよい年となりますことを心よりお祈り申し上げますとともに、引き続き本校に対しご厚情賜りますよう、何卒よろしくお願いいたします。



【4月】



【5月】



【6月】



【7月】



【8月】



【9月】



【10月】



【11月】



【12月】

オープンスクール&ふれあい祭り

12月6日(土)、全市一斉の小学校土曜授業として、「オープンスクール」と「ふれあい祭り」を実施しました。

「オープンスクール」では、5・6年生が合同で音楽の授業を公開し、息の合った演奏を発表しました。

「ふれあい祭り」では、ボウリングや輪投げ等のゲームコーナー、プラ板作り、バザーなど、PTAの方々が趣向を凝らし、子どもも大人も楽しく過ごしました。また、フィナーレでは、参加者全員で校庭に集まり「瑞南音頭」を踊り「ふれあい祭り」を締め括りました。



人権週間

「自分がされていやなことは、人にしない 言わない」

本校では、12月8日(月)～12日(金)を「人権週間」とし、基本的人権を尊重する態度を育成し、差別を許さない態度の育成を図ってまいりました。

主な取組として、

日常の行動では、行動する前に善悪の判断をすることや、相手の立場に立って考えることを身に付けられるようにする。

あいさつでは、誰にでも自分からあいさつをする習慣を身に付けられるようにする。

友達の呼び方では、「さん」づけを徹底する。

友達への接し方では、誰にでも優しい気持ちで接することができるようにする。

また、朝の放送では「世界がひとつになるまで」を流したり、人権標語の代表作品を各クラスに掲示したりするなど、人権意識の高揚を図りました。

これからも、コミュニケーション能力を育て、互いに理解し合える関係を築けるよう指導してまいります。

